

●観光アクションプラン策定の背景と目的

新見観光ブランドの確立

(1)新見市が抱える課題

本市は岡山県の西北端に位置する自然豊かな中山間都市です。市北部の千屋に源を発する高梁川とともにその歴史は刻まれてきました。

中世には、京都東寺の荘園「新見庄」として整えられ、砂鉄を溶かすたたら製鉄が盛んにおこなわれていました。近世や近代には、和牛や葉煙草の生産、石灰業・農林業を中心とした暮らしが受け継がれてきました。

戦後、経済の高度成長は、より多くの現金収入が得られる都会への人口移動を加速させ、農山村の人口減少を引き起こすこととなりました。本市も例外ではなく、人材不足や後継者不足、さらに高齢化、都市への人口集中等による商圏内人口の減少、域内消費の鈍化などが課題となっています。

(2)アクションプラン策定の目的

国は、観光は我が国の成長戦略の柱と位置づけ、地方創生への「切り札」として、最重要施策の1つとして推進しており、各都道府県も同様に積極的に推進しています。2017年3月には、「観光立国推進基本計画」が閣議決定されるなど、引き続き、訪日外国人の増加が期待されるとともに、国内観光客においては嗜好やライフスタイルの変化等により体験・経験型観光に関心が高まっています。

こうした環境の変化に対応し、商圏内人口の減少や域内消費の鈍化など、本市の抱える課題の解決のため、観光アクションプランを策定し、国内観光客や訪日外国人を本市に呼び寄せ、滞在時間を伸ばし、さらにはファン(リピーター)を増やすことで、地域内消費を増加させ、各種産業や地域を活性化させることを目指します。

(3)新見観光ブランドの確立

「～白と黒の不思議～らいむアーツにいみ」

古来より新見の人々の営みは、日本有数のカルスト台地である阿哲台など、石灰岩が育んだ恵み豊かな自然に支えられてきました。そして、石灰岩や石灰が織りなすこの地域独自の自然環境が、他所に誇れる歴史・文化・自然・動植物・産物などを生み出しています。そこで、この『石灰(らいむ)』を、本市の観光資源を繋ぐキーワード、つまり観光の柱とします。

本市の地域全体を広大なキャンバスとし、『石灰(らいむ)』が織りなす本市の観光資源を、『芸術(アーツ)』と捉えます。そして、雪(スキー場)・鍾乳洞・和紙・米・清流などの観光資源を『白』とし、千屋牛・ピオーネ・たたら・木炭、SLなどの観光資源を『黒』と捉え、これらを施策により彩り豊かに仕上げていく願いを込めて、『～白と黒の不思議～らいむアーツにいみ』を、新見市の観光ブランドとして提唱します。

白	雪(スキー場)、ユキワリソウなどの山野草、サギソウなどの湿原の花、そばの花、水(清流)、氷、鍾乳洞、ワイン、和紙、タバコの三角キャップ、米、餅、白酒 など
黒	千屋牛、ピオーネ、たたら、木炭、SL、キャビア、夜空、洞窟、カブトムシやクワガタなどの里山の昆虫